

ひだご坊高山別院報恩講 -11月1日から3日まで勤修-

◆真宗僧侶の在り様の確かめの場としての報恩講を◆

コロナ感染状況下での難しさもさながら、現代のお寺離れと言われる現実の中でどのように報恩講を勤めるのかも重い課題である。これについて考えるところを若干述べておきたい。

■センター教化と報恩講の連動性—報恩講はセンター教化の集大成

イベントやだれもが興味をそそるような内容を考えることも必要ではあるが、先んじて、センター教化の取り組みと報恩講執行の連動性が生まれてくることが重要である。

センターの教化の柱に掲げられた「同朋唱和、帰敬式、青少幼年教化」は全て報恩講とつながる。同朋唱和を推進することは、単にお勤めを一緒にするというだけではなく、報恩講が勤まってくることを外しての同朋唱和ではない。帰敬式については、釋尊の弟子としての名乗りであるが、同時に宗祖親鸞聖人のお弟子であるということが再確認され、親鸞聖人への帰敬として報恩講への参詣につながっていくことが願われている。

また青少幼年教化については、「正信偈を歌い継ぐ—お内仏に集う家族形成サポート」として、青少幼年に限定するのではなく、お内仏に集う中で正信偈同朋唱和がなされていく関係が開かれていくことに眼目が置かれ、この目標をもって、別院報恩講の中で家族報恩講の実施を期す(コロナ感染状況に鑑み未実施)。これに関連する調査結果がある。2016年に実施された報恩講に関するアンケート調査の結果が興味深い(『報恩講—伝承から新たな伝統へ』

76頁)。「お寺にお参りするよう勧めてくれたのはあなたですか?」の設問に対する回答が、圧倒的に「祖父母・両親」であったことである。「住職や坊守に言われて」という回答を大きく凌いで、家族からの勧めが大きな機縁となっていることが注目される。青少幼年教化の着目点である。

まずは、報恩講を教化の三本柱の集大成として、真宗門徒誕生の場として、^{かたど}象^{かたど}っていくことを心がけていきたい。

■消滅していく報恩講

飛騨において、現在でも在家報恩講が勤まる地域はあるが、戦中戦後から近年にかけて、多くの家が在家報恩講をやめていったという話を聞く。なぜなくなっていったのか? 戦時中では、お齋が贅沢であるとか、集まりが禁止されたなど、いくつかの理由めいた話を聞いたことはあるが定かではない。近年のこととしては、社会状況が変貌し、核家族化の進行など家の在り方が大きく変わったということも要因の一つだろう。コロナ感染は、今後さらに悪い影響を与えるかもしれない。

すべての家庭で報恩講が勤まっていたわけではないが、これは「お内仏に集う家族」の姿が消えていった事象の一つではないのか。こうして一度失われたものを復活させることの難しさは、だれにでも想像できるだろう。これはずっと以前に失われたという話ではなく、現在進行形のことである。若年層の方に報恩講はほとんど認知されていない。

■「真宗僧侶の在り様の確かめの場」としての報恩講

そこで考えなければいけないこととして、報恩講が衰退していくことへの自責の念が、私たち真宗僧侶の中にあるのかということがある。報恩講が動まらなくなったことを悔いるような声が聞こえてこないし、自分の中からも聞こえない。昔のこととか社会状況の責任にして、衰退の理由を、自らの在り様の中に見出そうとしていないということはないか。

帰敬式についても同じようなことが言えるだろう。【以下引用】1996年に提唱された「帰敬式実践運動」の意味は大きい。存命者に対し、住職が帰敬式を執行することができるようになった。帰敬式授式の機会が断然多くなったわけである。しかし、このことの意義の大きさがなかなか浸透していかない。そこには宗派としての取り組みの弱さもあるが、我々僧侶一人一人の認識の弱さ、もっと言えば無関心さが原因としてあると思う…【『センターだより第9号』連載「帰敬式授式—法名を考える」⑦より】

同朋唱和についても、先の宗祖御遠忌での取り組みにおいて、“僧侶が第三者的になっていたのではないか”という問題提起がなされている。

報恩講をどのような場としてお勤めしていくのか。より多くのご門徒にお参りいただくよう心がけることは当然大切なことではあるが、私たち真宗僧侶の今の在り様や使命を確認し、「このままでいいのか」と考えていく場であるということも、必要なのではないか。

飛騨御坊真宗教化センター

耳なれすずめ



★センター・別院からのお知らせ★

※各行事は、コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

水風船炸裂! 飛騨御坊からの挑戦状(青少幼年部会)

7月26日、高山別院を会場に、「飛騨御坊からの挑戦状(ごぼう夏のつどい)」が開催されました。当日は天気にも恵まれ、44名の参加をいただきました。また今年度は、午前(低学年)と午後(高学年)の2部制とし、新型コロナウイルス感染拡大防止へ最大限に配慮した形での開催といたしました。



午前の部では「リアルプラトーン」として、水鉄砲遊びやシャボン玉づくりなどを行いました。午後の部では本堂や御坊会館を使用し、「リアル脱出ゲーム」を行いました。参加した子たちからは、「楽しかった—、また来年も楽しみにしてる」など、一日の疲れも吹き飛ばすような嬉しい声も聞こえてきました。

青少幼年部会では引き続き開催可能な様々な形を模索しつつ、さらに別院への機縁が開かれるよう、取り組みを進めてまいります。

高山別院御堂番 休止期間のお知らせ

現下のコロナ感染状況により、8月22日から9月24日まで御堂番を休止いたします。

飛騨学場・ご坊夏の暁天講座 8月1日~5日

8月1日から5日まで飛騨学場が開催されました。昨年はコロナ感染状況に鑑み中止となりましたが、今年は、午前中の講義のみで、感染対策を行い開催することができました。



1日から3日の本講には藤場俊基先生に「化身土巻」について、4日から5日は草野頭之先生に「飛騨と蓮如上人」についてお話をいただきました。また1日から4日の朝、暁天講座も開催することが出来ました。

秋季彼岸会(高山別院) 9月20日~26日

高山別院では、9月20日(月)から26日(日)午後1時から、秋季彼岸永代経法座が本堂にて勤まります。なお今年から、中日の23日には報徳会並びに再建永代経が勤まります。

- 20日(月) 三枝正尚氏(随縁寺住職) 人と生まれて
- 21日(火) 細川 寛氏(浄慶寺住職) かの土へはまいるべきなり
- 22日(水) 帰雲真智氏(還來寺住職) 真宗門徒の終活
- 23日(木) 三島多聞(別院輪番) 安心(あんしん) から安心(あんじん)へ
- 24日(金) 江馬雅人氏(賢誓寺住職) 三つの宝「仏・法・僧」
- 25日(土) 四衢 亮氏(不遠寺住職) 念仏の教えと私たち
- 26日(日) 窪田 哲氏(圓徳寺前任職) ほんこさま

【背水の陣】

「帰敬式受式—法名を考える」を連載してまいりましたが、今回で最終回となる。

帰敬式を受式し報恩講に集う者となるのが真宗の二大教化である。その他の教化は、この二大教化に結集してこそ意義を持つ。さてここで振り返ってみよう。我々は「報恩講」を教化する「運動」としてきたであろうか。今日まで、報恩講を年間行事の一つとして勤めてきたに止まっていなかったらどうか。今日、確実に生活様式が変わりつつあるが、だからこそ運動としての報恩講を実現していきたい。

飛騨御坊真宗教化センターでは、ご坊報恩講を四教化部門の教化事業の集大成として結集するという目的を持っている。すなわち報恩講を教化運動としてとらえるのだという見識である。早くこの運動成果が具体化することを願っているし、さらに、各寺においても年間の教化運動の集大成が報恩講となる形を創っていただきたい。逆に言えば、報恩講教化運動が各寺の年間教化も統理し作っていく形である。単なるバラバラの、何の脈絡もない年間教化行事にしないという見識が必要だ。

【根本教化としての「帰敬式実践運動」】

真に報恩講たらしめるために「帰敬式実践運動」が根本教化とならなければならない。中日新聞の「現論」で、保阪正康氏が、「コロナ禍で変わる葬儀」として“別れの儀式は自分流に”と題して論じていた。“お経のかわりに詩を音読し、私の儀式を私流に行うことで、故人との別れに心

の整理をした。通夜でも告別式でもない”と。

現代の知識人をはじめ、一般の人々の多くは保阪氏の考えに同調するだろう。そしてさらに葬儀式は変わっていく。この潮流の中で帰敬式実践運動とは何か。如何なる意義を持つのか。以下、二つの意義を述べてみたい。

各人、私流の別れ、バラバラになっていく「孤独—無縁社会」の中にあって、帰敬式は大切な「結縁運動」である。孤独からの解放である。同朋として尊敬しあう世界を知らしめる教化運動としての帰敬式である。10代・20代の青年の自殺の理由の3割は、生きる意味が見つからないからという統計が出ていた。ここには孤独・人と人との関係性の分断という背景がある。帰敬式実践運動は、相手の顔が見えてくる、人と人が出遇える運動として展開されるべきものである。

今一つ、死後に法名を授与されることの意義を考え直したい。門徒として生きるという態度決定が帰敬式だが、ここを強調するあまり、死後法名を軽視する傾向にある。ここを改める必要がある。コロナ禍でより家族葬が定着してきた。これは一つの好機だ。身内ばかりの葬儀となれば、授与した故人の「法名」の意味についてより話がしやすいし、故人とのつながりも仏縁としていく絶好の場となる。「法名」の意味を便箋一枚に書き、身内親族に手渡せば、自ずと故人との関わりが仏縁となり、自分の生き方を問う機会となるだろうしそうなることを願う。

【和国における帰依三宝】

今年には聖徳太子1400回忌である。親鸞聖

人は聖徳太子を「和国の教主」としてお慕いされた。『皇太子聖徳奉讃』はどの和讃を見ても敬慕の念、恭敬心に満ちている。太子に導かれて法然上人に出遇い、これまた決定的和讃を作っておられる。“曠劫多生のあいだにも 出離の強縁しらざりき 本師源空いまさずは このたびむなしくすぎなまし” [聖徳太子—法然—親鸞]の念仏の流れがここにある。法脈の源流は「十七条憲法」の第二条「篤く三宝を敬え。三宝とは仏・法・僧なり。すなわち四生の終わりの^{よりどころ} 帰、方の国の極めの宗なり。何の世、何の人の、この法を貴びずあらん。人はなほだ悪しきもの^{すく} 鮮なし。よく教うるときは従う。其れ三宝に帰りまつらずは、何をもってか^{まが} 枉れるを^{ただ} 直さん」である。

和国は「帰依三宝」より始まり、そして法然上人のもと、浄土の帰依三宝が相続されてきた。親鸞聖人はその浄土の帰依三宝を太子にさかのぼり、“聖徳皇のおあわれみに 護持養育たえずして 如来二種の回向に すすめいれしめおわします”の和讃を作っておられる。

この国の帰敬式実践運動は、遠く聖徳太子に始まる。そして『小経』では、“念仏念法念僧”と、日本のどこかで一日も欠かさず念三宝を唱えられている。この歴史継続に思いを致す時、おのずと深い恩徳が湧き上がり、“報わねばならない”と教化が生まれてくるはずだ。

聖徳太子1400回忌を単なる通過の出来事にしてはならない。(おわり)

来月号は、「帰敬式実践運動」についてお知らせします。

『高山市民時報』ミニ法話『響』連載中

9月の寄稿者

- 三島 多聞 (高山別院輪番)
- 春國 文春氏 (高山二組 玄興寺住職)
- 三島 大蓮氏 (高山一組 真蓮寺住職)
- 夏野 了氏 (清見組 満成寺住職)

web ひだご坊でも「一口法話」配信中!

<https://hidagobo.jp/>

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

高山別院報恩講 帰敬式受式者募集について

今年の11月1日から3日にかけて勤修される高山別院報恩講において、下記のとおり帰敬式を執行いたします。

各ご寺院には、8月上旬に募集要項及び案内チラシを学場中に配布(又は送付)いたしましたので、受式奨励くださいますようお願い申し上げます。



飛騨御坊での帰敬式 (おかみそり)

日 時: 11月3日(水祝) 午前10時~正午
 会 場: 高山別院本堂 眞加金: 13,000円
 申込締切: 10月8日(金)
 事前学習: 10月19日(火) ①13時~ ②19時~ ※詳細は、8月上旬配布の要項をご確認ください。



案内チラシ PDF
「web ひだご坊」

飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2021年9月行事予定 ※コロナ感染の状況により中止や変更になる場合があります。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会 場
1	水			
2	木			
3	金	13:00	別 三日のご坊 法話:夏野 了氏(満成寺住職) 七 青少年幼年部会 (web)	本堂 センター室
4	土			
5	日	7:00	別 半日華	
6	月	14:00	教 益田組所長巡回	浄福寺
7	火			
8	水			
9	木	13:30	七 企画会議 (延期)	研修室
10	金			
11	土	13:00 14:00 16:00	別 大谷婦人会定例 法話:輪番 教 朝日高根組門徒会研修 教 朝日高根組所長巡回	御坊会館 長圓寺 長圓寺
12	日	13:15 14:00	教 清見組所長巡回 教 第二回清見組門徒会研修	了徳寺 了徳寺
13	月	7:00	別 前住上人ご命日	本堂
14	火	14:00	教 慶讃法要広報部会	高山教務支所
15	水			

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区	会 場
16	木	14:00	教 吉城組所長巡回 (門徒会合同)	吉城組 誓願寺
17	金			
18	土	7:00	別 一日華	
19	日	11:00	別 納骨経	本堂・御坊会館
20	月	13:00	別 彼岸会 法話:三枝 正尚氏(隨縁寺住職)	本堂
21	火	13:00	別 彼岸会 法話:細川 寛氏(浄慶寺住職)	本堂
22	水	13:00	別 彼岸会 法話:帰雲 真智氏(還来寺住職)	本堂
23	木	13:00	別 彼岸会 法話:三島 多聞氏(別院輪番)	本堂
24	金	13:00	別 彼岸会 法話:江馬 雅人氏(賢誓寺住職)	本堂
25	土	13:00	別 彼岸会 法話:四衢 亮氏(不遠寺住職)	本堂
26	日	13:00	別 彼岸会 法話:窪田 哲氏(円徳寺前住職)	本堂
27	月	13:00 19:00	別 親鸞聖人お逮夜 教 益田組門徒会研修 (延期)	本堂 頓乗寺
28	火	13:00	別 親鸞聖人御命日 法話:内記 洸氏(往還寺副住職)	本堂
29	水	19:00	教 教研定例	研修室
30	木	15:30	組 法名に関する懇談会 (高山一組)	

10月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
1	金	13:30	第二回高山一組門徒会研修	13	水	13:3	吉城組門徒会研修会